

# 2024年3月期 通期決算 補足説明資料

## (2023年4月～2024年3月)

2024年5月10日

# 1. 2024年3月期 通期 決算概要

## 2. 2025年3月期 通期 業績予想

## 3. 今後の見通し

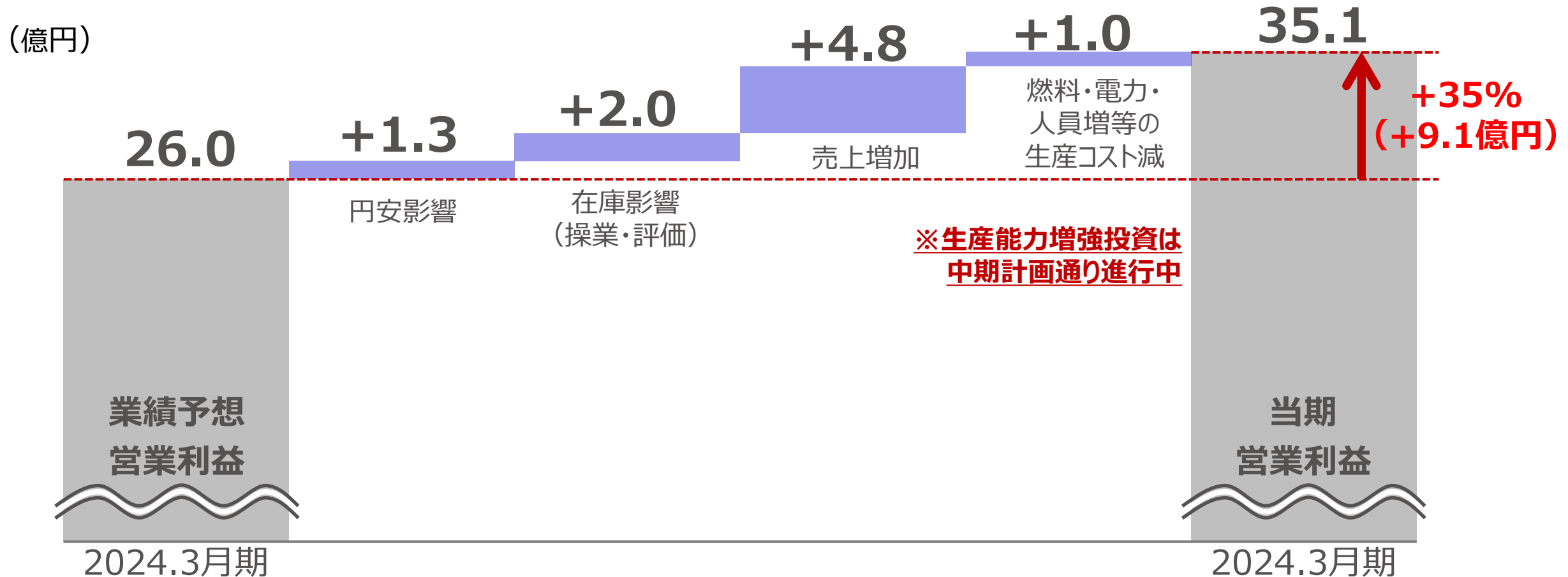
# 2024年3月期 業績概要

- 売上高は、半導体需要の低迷とサプライチェーン上の在庫調整の影響を受け、319.5億円（前期比△6%）。
- 営業利益は、需要減退の中、需要状況に応じたコスト抑制に取り組み35.1億円（同△29%）。
- 業績予想比では、売上高+3%、営業利益+35%、純利益+50%の**超過達成**。

	2023.3月期 実績 (億円)	2024.3月期 実績	前年同期比		2024.3月期 業績予想	業績予想比	
			増減額	増減率		増減額	増減率
売上高	341.5	<b>319.5</b>	△22.0	△6%	310.0	+9.5	+3%
営業利益	49.6	<b>35.1</b>	△14.5	△29%	26.0	+9.1	+35%
経常利益	51.2	<b>33.9</b>	△17.2	△34%	25.0	+8.9	+36%
純利益	38.2	<b>23.9</b>	△14.3	△37%	16.0	+7.9	+50%
1株当たり純利益	482円	<b>301円</b>					
期中平均為替レート	¥133/\$	<b>¥144/\$</b>					

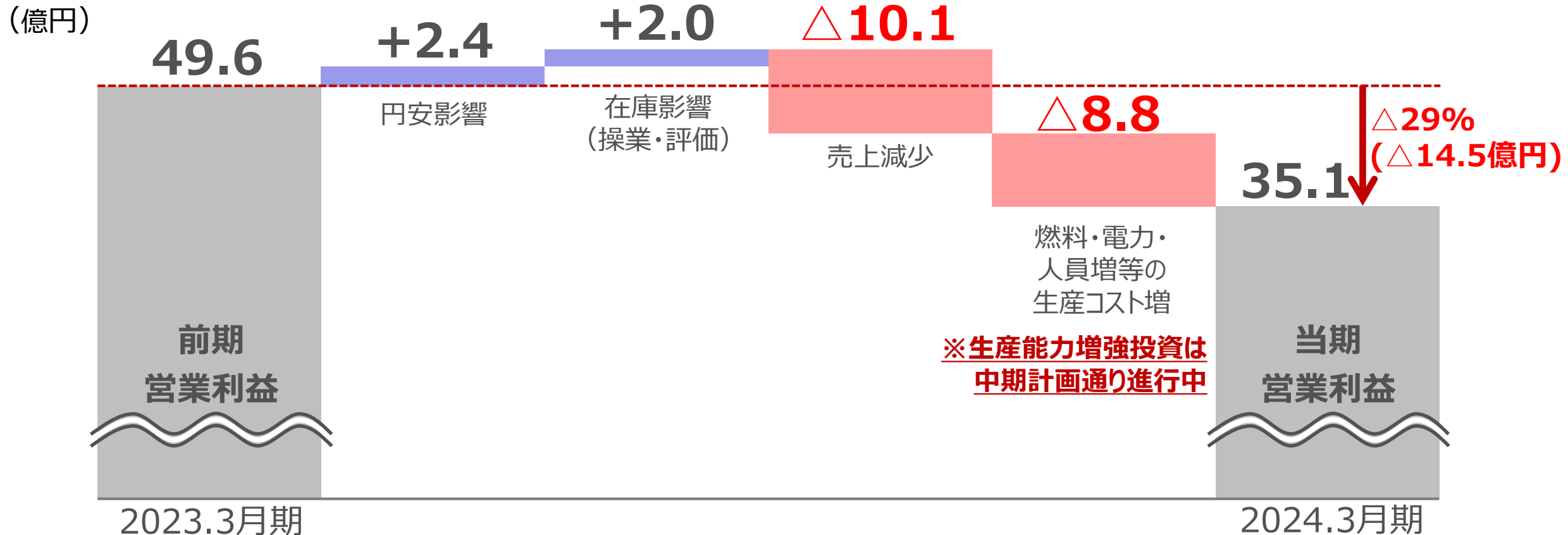
# 営業利益 業績予想比 増減要因

- 営業利益は業績予想26億円から+35%超過し、35.1億円（+9.1億円）。
- 下期から需要回復により、+4.8億円の増益影響。
- 円安影響、在庫評価益+3.3億円、需要減退に応じたコスト抑制により+1億円。



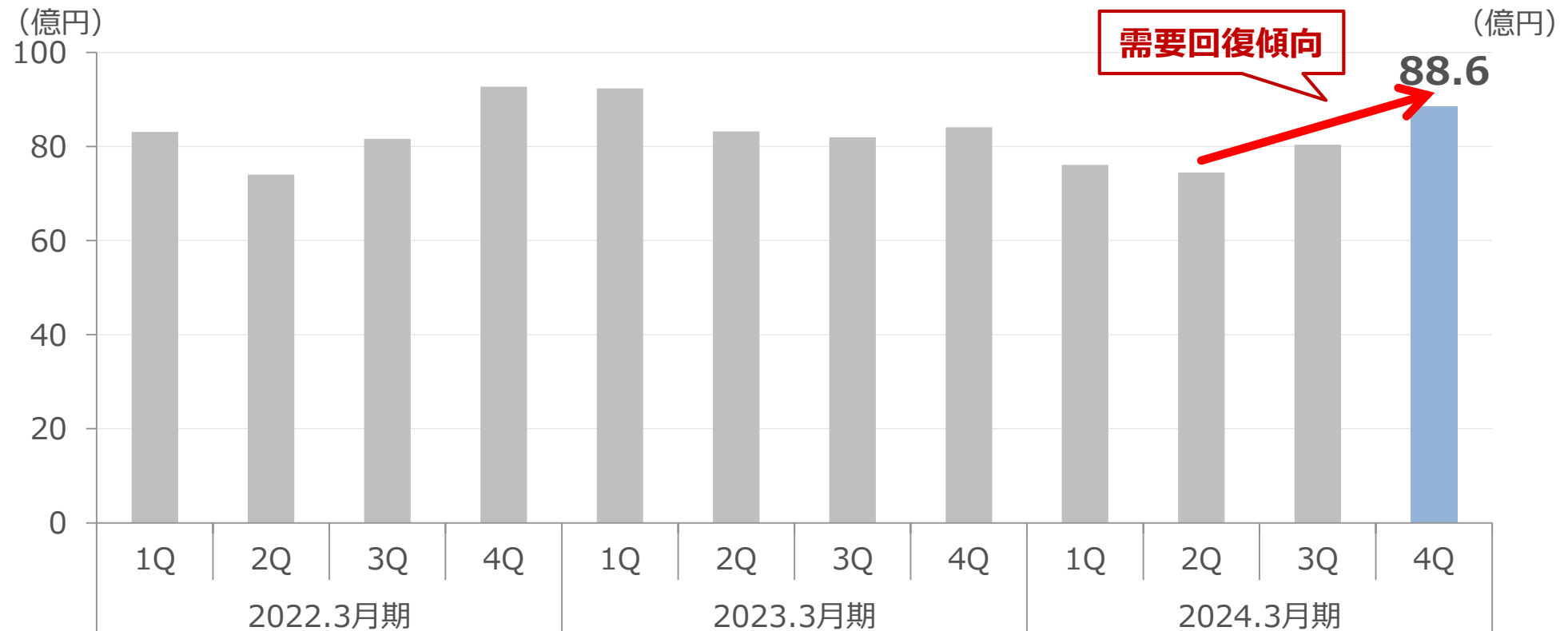
# 営業利益 前期比 増減要因

- 売上の減少22億円（△6%）、燃料・電力料のコスト増、生産能力の増強投資を継続する中、期中に費用計画を見直し、営業利益を前期比△23.6億円（△48%）から△14.5億円（△29%）まで改善。
- 期初計画の通期生産コスト増25億円を、中間決算時10億円、実績では8.8億円増に抑制。
- 円安影響、在庫評価益も寄与し、営業利益35.1億円。

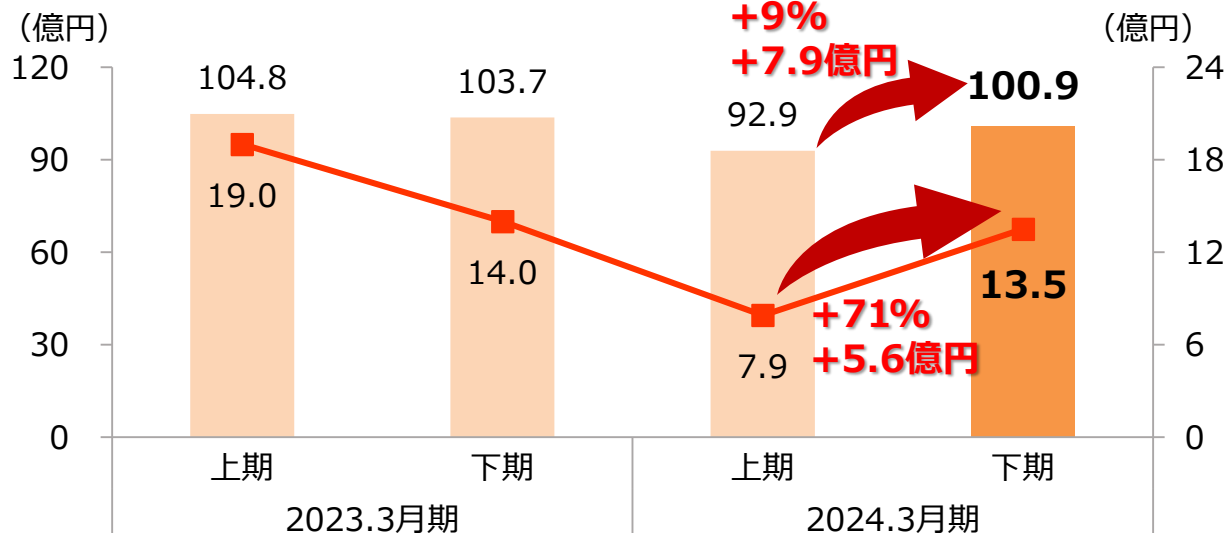
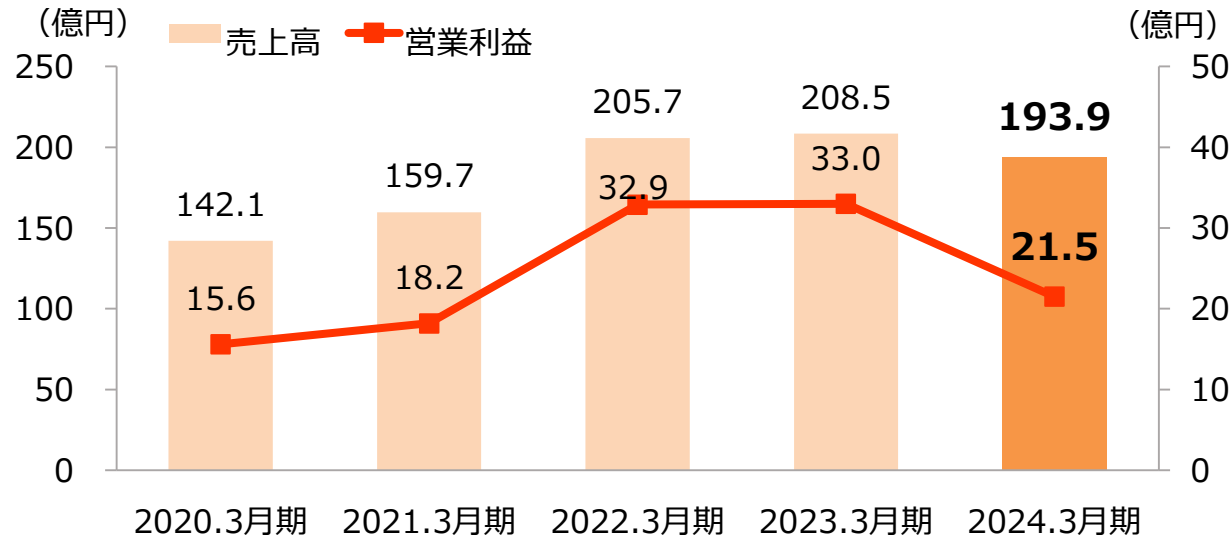


- 需要の減少は2Qに底打ち。下期以降、緩やかに回復傾向。

## 四半期別 売上高・営業利益



## 売上高・営業利益



## 売上高：193.9億円

(前期比△14.6億円、△7%)

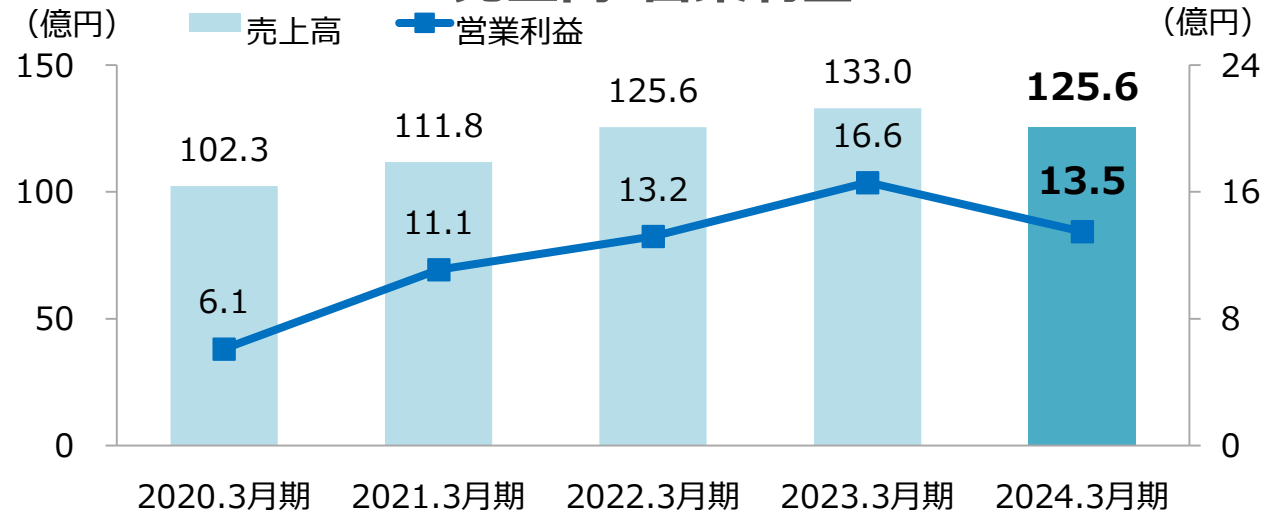
- 半導体向け材料は、先端分野を中心に下期回復。
- ディスプレイ向け材料は、中国を中心とした大型パネル生産が軟調な中、一定レベルの需要を維持。
- 下期は、上期比で+9%の増加。

## 営業利益：21.5億円

(同△11.4億円、△35%)

- 上期は需要減退影響を大きく受け、販売減により減益。
- 下期は需要回復に伴い、**上期比+71%の大幅増益**。
- 今後の需要拡大に向け、当初計画通りに生産能力増強を継続。

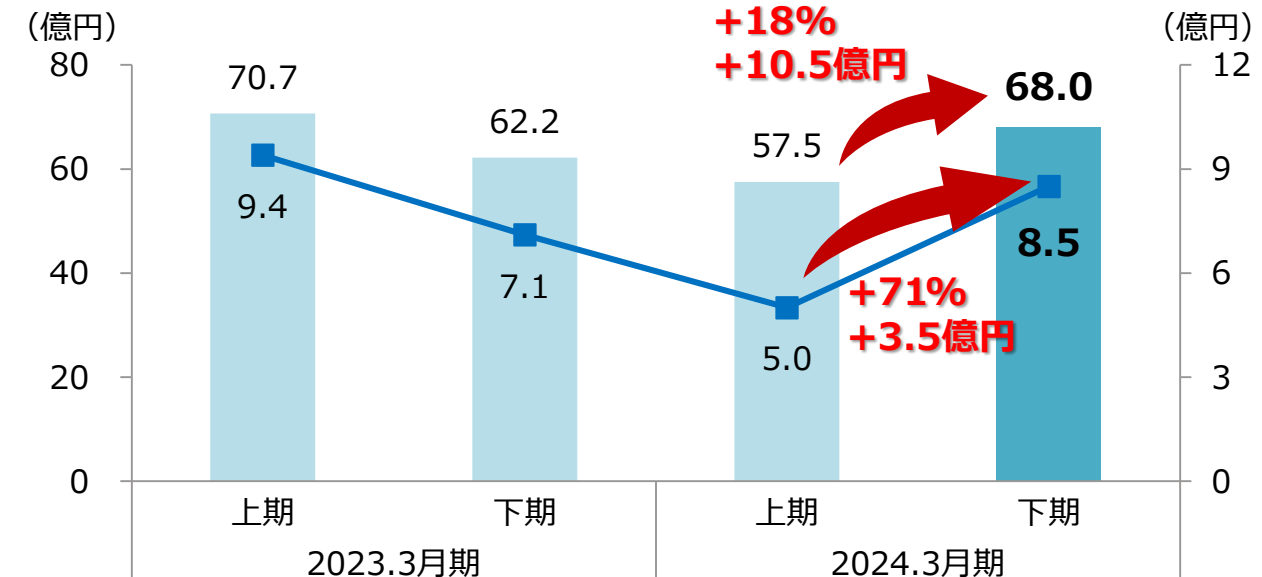
## 売上高・営業利益



**売上高：125.6億円**

(前期比△7.3億円、△6%)

- 電子材料関連は、下期以降、回復傾向が継続。
- 香料材料関連は、トイレタリー向け香料の需要が回復し前期比で増収。
- ロジスティック関連は、荷動きの低迷が継続しているものの、タンク契約率は高水準で推移。
- 下期は、上期比+18%の増収。



**営業利益：13.5億円**

(同△3.0億円、△18%)

- 上期は電子材料関連の売上減少により、減益。
- 下期は、需要回復に伴い、**上期比+71%の大幅増益**。



# 2024年3月期 損益計算書

- 売上高は319.5億円（前期比△6%）。
- 売上総利益は、売上減少による原価上昇により、76.0億円（同△16%）。

(億円)	2023.3月期	2024.3月期	増減額	増減率
売上高	341.5	319.5	△ 22.0	△6%
売上原価	251.2	243.5	△ 7.6	△3%
売上総利益	90.3	76.0	△ 14.3	△16%
販売管理費	40.6	40.8	+0.2	+1%
営業利益	49.6	35.1	△ 14.5	△29%
営業外収益	3.0	2.0	△ 0.9	△32%
営業外費用	1.5	3.2	+1.7	+115%
経常利益	51.2	33.9	△ 17.2	△34%
特別損益	△ 0.6	△ 1.2	△ 0.5	
税引前当期純利益	50.5	32.7	△ 17.8	△35%
法人税等合計	12.2	8.7	△ 3.5	△29%
当期純利益	38.2	23.9	△ 14.3	△37%

← 一過性の廃棄など

# 2024年3月期 キャッシュフロー計算書

- 営業CF：45.7億円 売上減に伴う利益減少があるものの、運転資金+14.3億円改善により、前期比9.1億円の増加。
- 投資CF：75.9億円 生産能力増強投資を継続。
- 財務CF：35.9億円 設備投資資金を確保。

	(億円)	2023.3月期	2024.3月期	増減額
<b>営業活動によるCF</b>		36.5	45.7	+9.1
税引前当期純利益		50.5	32.7	△17.8
減価償却費		27.9	28.9	+1.0
売上債権の増減額（+は減少）		14.8	△13.1	△27.9
棚卸資産の増減額（+は減少）		△36.7	14.2	+50.9
仕入債務の増減額（+は増加）		△0.6	△9.3	△8.7
その他		△19.4	△7.7	+11.7
<b>投資活動によるCF</b>		△32.7	△75.9	△43.1
フリー・キャッシュフロー		3.8	△30.2	△34.0
<b>財務活動によるCF</b>		△4.0	35.9	+40.0
現金及び現金同等物に係る換算差額		0.0	△1.8	△1.8
現金及び現金同等物の増減		△0.1	3.9	+4.1
現金及び現金同等物の期末残高		32.5	36.4	+3.9

**運転資金の改善 +14.3**

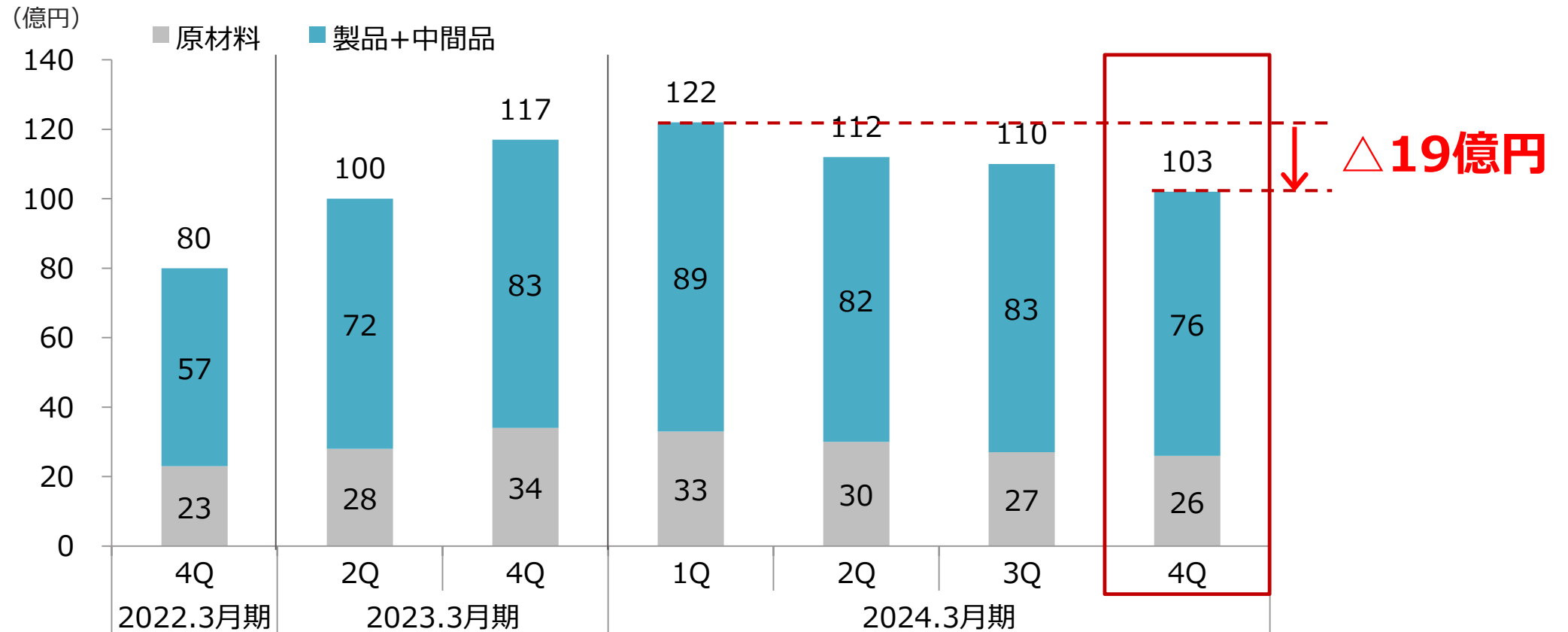
# 2024年3月期 貸借対照表

- 売上債権は、4Qの売上増加により+13.1億円。
- 棚卸資産は、売上の回復と仕入抑制により△14.2億円。
- 有形固定資産は、生産能力増強の設備投資により+62.2億円。
- 借入金は、設備投資増加により+41.1億円。
- 株主資本は、純利益の増加により+20.7億円。

(億円)	2023.3月末	2024.3月末	増減額		(億円)	2023.3月末	2024.3月末	増減額
<b>流動資産</b>	216.8	226.8	+9.9	<b>負債</b>	314.6	376.9	+62.2	
現金預金	32.5	36.4	+3.9	仕入債務	49.4	40.0	△ 9.3	
売上債権	59.1	72.2	+13.1	借入金	178.9	220.0	+41.1	
棚卸資産	117.5	103.3	△ 14.2	その他	86.2	116.7	+30.4	
その他	7.6	14.7	+7.1					
<b>固定資産</b>	294.2	368.3	+74.1	<b>純資産</b>	196.4	218.2	+21.8	
有形固定資産	276.3	338.6	+62.2	株主資本	195.5	216.3	+20.7	
無形固定資産	6.0	15.7	+9.7	評価・換算差額等	0.8	1.9	+1.0	
投資・その他	11.7	13.9	+2.2					
<b>資産合計</b>	511.0	595.1	+84.1	<b>負債・純資産合計</b>	511.0	595.1	+84.1	

- 需要低迷に合わせ、棚卸資産を削減。
- 棚卸資産は前期末比で14億円減少、ピークの2024.3月期1Qから19億円減少。

## 棚卸資産の推移



**1. 2024年3月期 通期 決算概要**

**2. 2025年3月期 通期 業績予想**

**3. 今後の見通し**

# 2025年3月期 業績予想

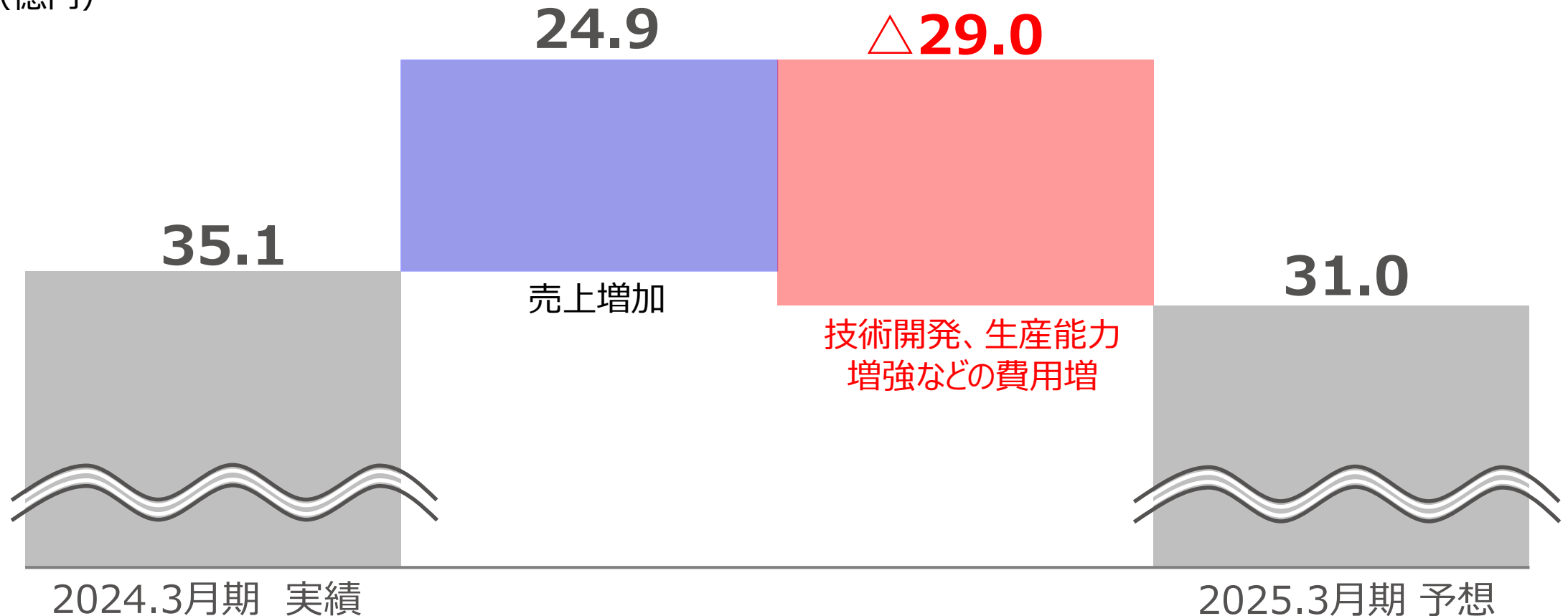
- 中期で需要拡大トレンドが継続すると想定。
- 2025.3月期の電子材料市場は、需要回復見通し。売上高は+55億円の販売増（+17%）を計画。
- 生産能力増強の大型設備の償却開始に伴う固定費上昇により、減益見通し。

(億円)	2024.3月期 実績	2025.3月期 業績予想	増減額	増減率
売上高	319.5	<b>375.0</b>	<b>+55.4</b>	<b>+17%</b>
営業利益	35.1	<b>31.0</b>	△4.1	△12%
経常利益	33.9	<b>30.0</b>	△3.9	△12%
当期純利益	23.9	<b>21.5</b>	△3.9	△10%
為替レート (USD)	¥144/\$	<b>¥148/\$</b>		

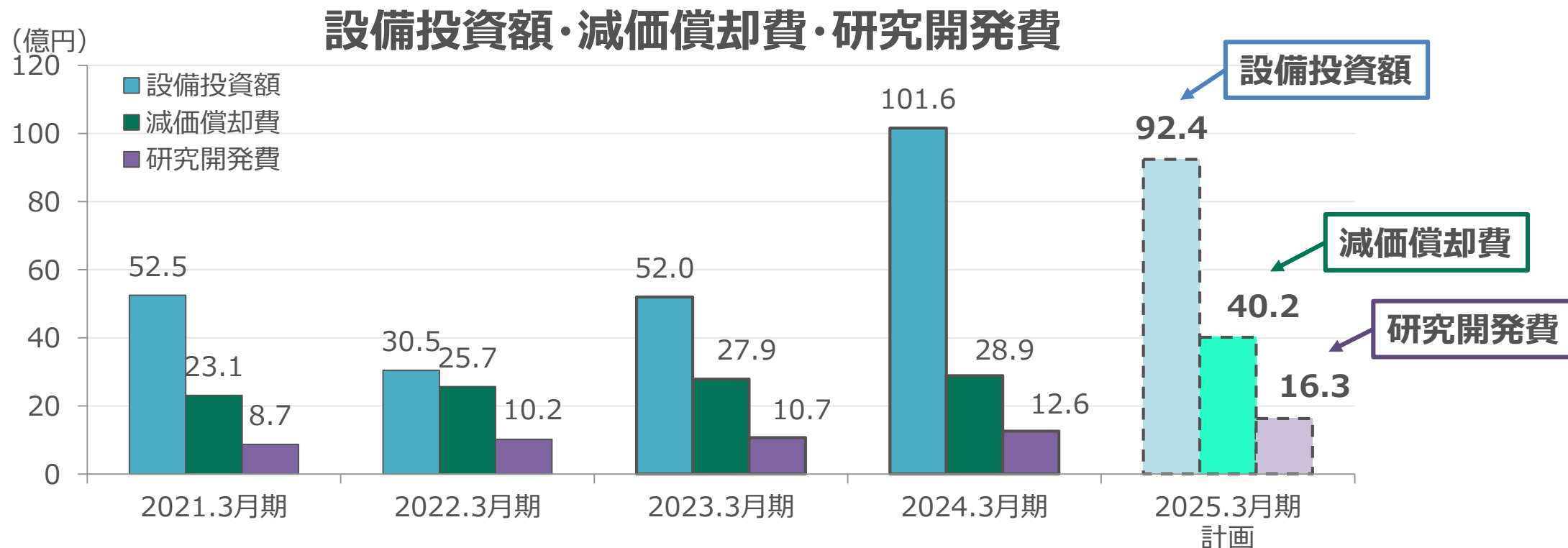
# 2025年3月期 営業利益 増減要因

- 売上の増加・生産性改善による利益増加影響 + 25億円を見込む一方、生産能力増強/技術開発などの費用増 + 29億円により、31億円の営業利益を計画。

(億円)



- 2024.3月期は、第4感光材工場の先端品能力増強（建設中）、淡路工場第2屋内充填所（完成済）など、101億円の設備投資を実施。
- 2025.3月期は、感光材開発分析棟（5月完成予定）、第4感光材工場の能力増強（8月完成予定）などにより、92億円の設備投資を計画。大型設備の完成により減価償却費が増加見込み。
- 研究開発は、生産性や品質向上に向けた製造技術力（分析/解析、工程開発）の強化を継続。





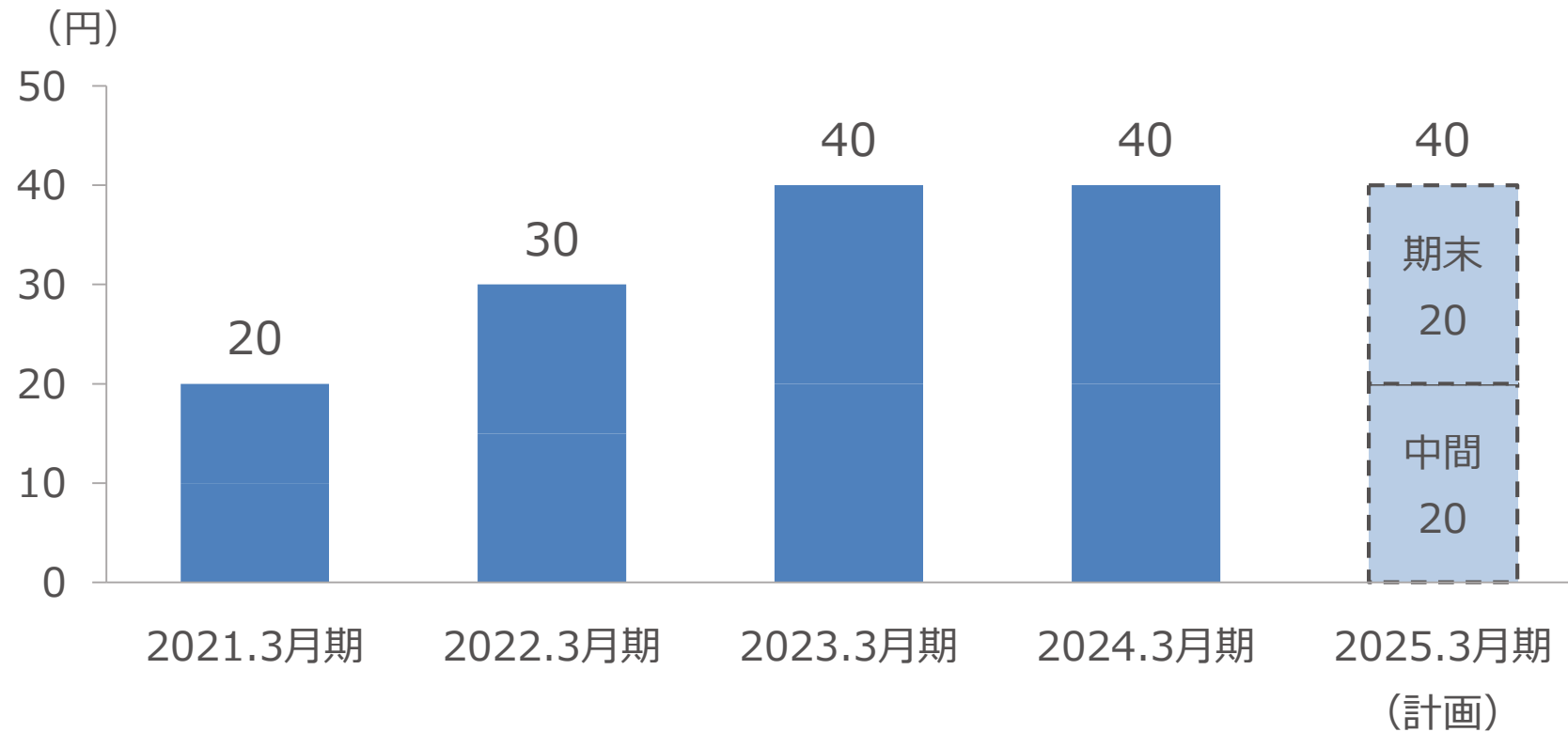
# 設備投資の進捗と予定

- 半導体市場は2024年以降、成長へ回帰。
- 2025.3月期は、感光材開発分析棟、第4感光材工場の先端品能力増強、淡路工場第2屋内充填所が完成・稼働予定。



- 安定配当を基本とし、中期的な成長を見込み、2025.3月期も年間配当40円（中間20円）を計画。

## 1株当たり配当金額

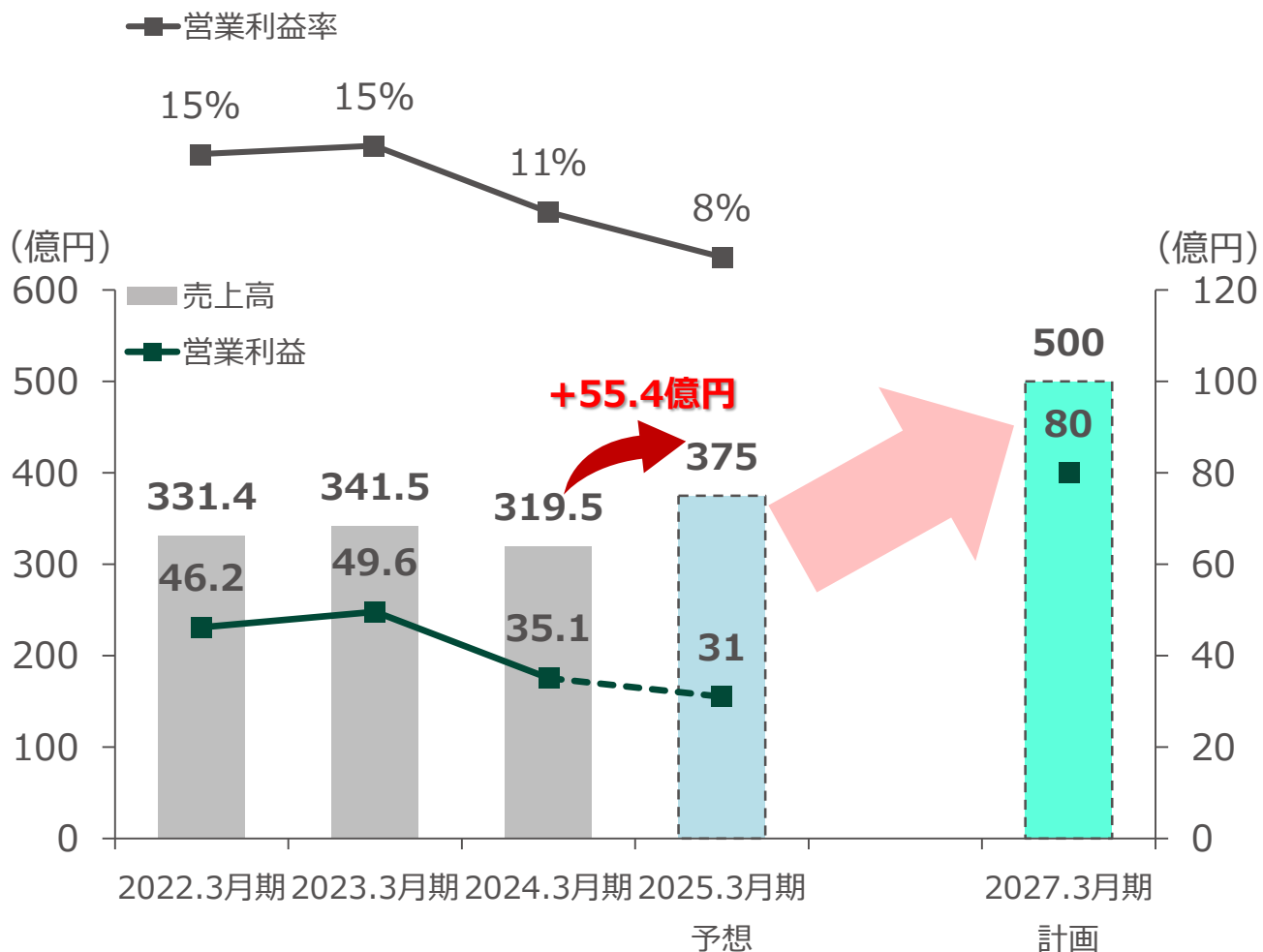


1. 2024年3月期 通期 決算概要

2. 2025年3月期 通期 業績予想

3. 今後の見通し

## 業績目標と進捗



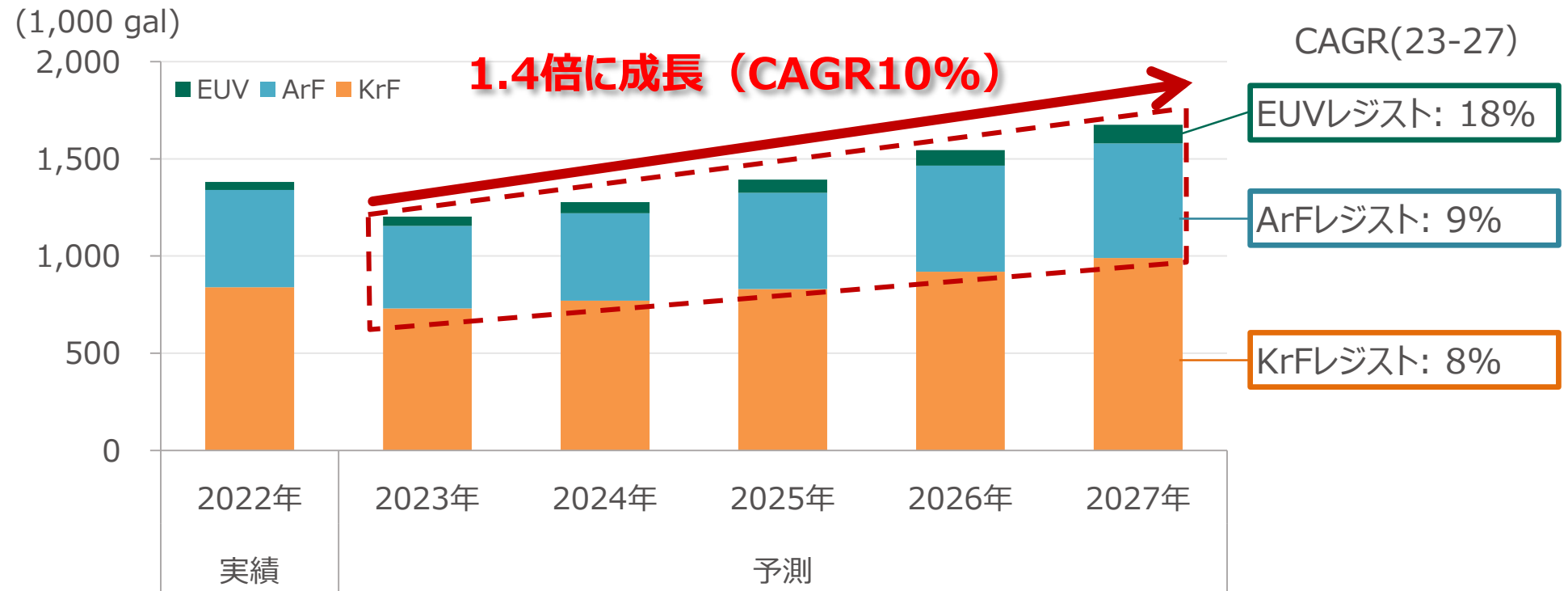
**Beyond500 (2027.3月期) 計画**  
**売上高：500億円**  
**営業利益：80億円 (営業利益率16%)**

- 2024.3月期は需要調整となったものの、電子材料市場の中長期的な成長を想定。
- 今後の需要に向け、生産能力増強投資は計画通り実施。
- 人材育成や技術戦略強化の取り組みも進行中。

**Beyond500期間**

- **2024年の世界半導体市場は、年10~15%成長、2025年以降は年平均10%成長を想定。**
- EUV用レジストの需要量は、2023年~2027年にかけて、**約2倍に成長。**
- 先端レジスト（EUV+ArF）の需要量も1.4倍に拡大見込み。

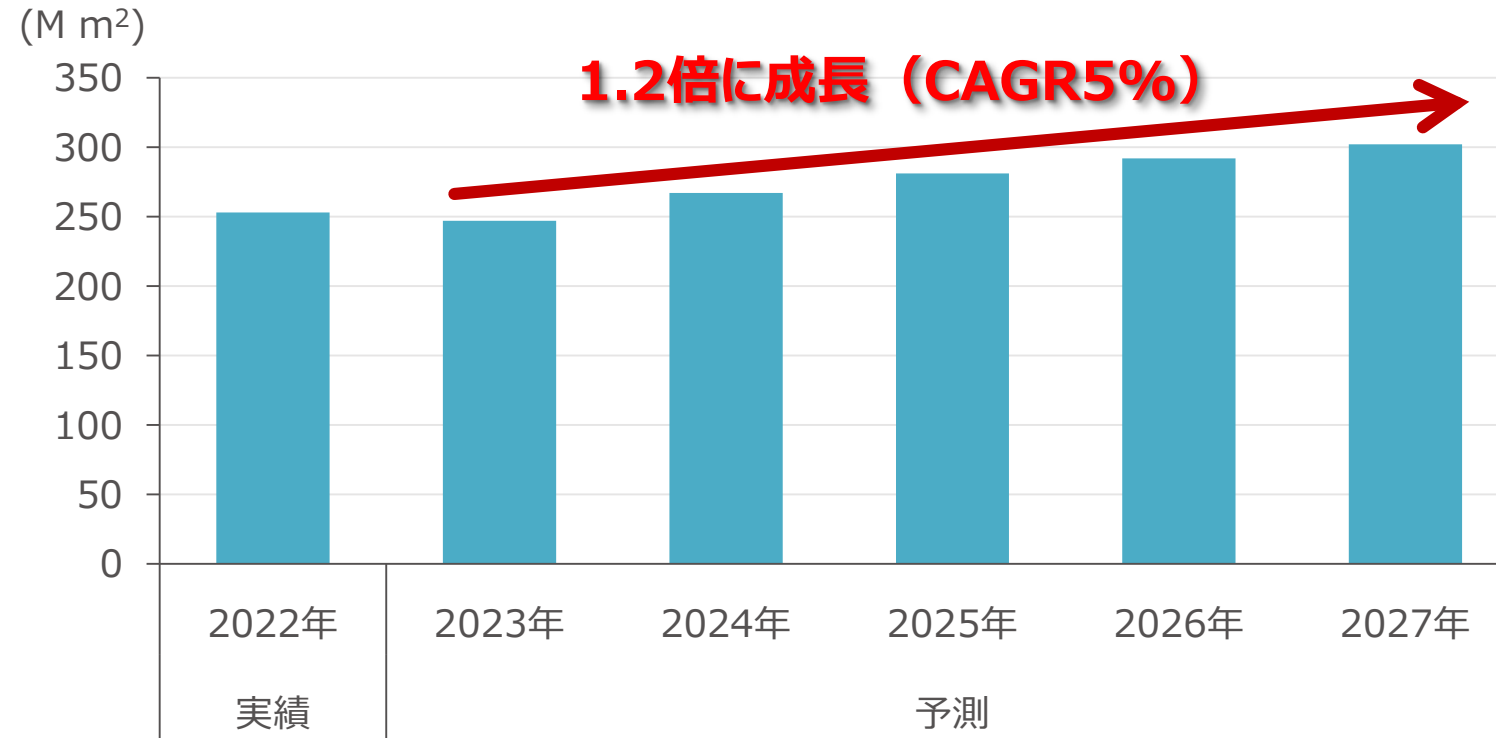
## フォトレジスト市場の予測



出所：富士キメラ総研「2024 先端/注目半導体関連市場の現状と将来展望」から当社作成

- 2024年以降、緩やかな成長が続く見通し。
- 2023年～2027年にかけて、1.2倍に成長見込み。
- TVの大型化や高精細品普及により、感光材/高純度溶剤の需要は拡大傾向。

## ディスプレイ需要の予測



出所：DSCC資料から当社作成

# 製造技術力強化・生産能力増強の取り組み



2023.8月  
香料工場 管理分析棟 完成



2024.3月  
淡路工場 第2屋内充填所 完成



2024.5月  
千葉工場 開発分析棟 完成予定



千葉工場 第4感光材工場 先端品能力増強  
2024.8月 完成予定

- 2023.8月  
香料工場 管理分析棟 竣工（投資額：約3億円）  
**生産性向上、社員が働きやすい環境を整備**
- 2024.3月  
淡路工場 第2屋内充填所 竣工（投資額：約10億円）  
**半導体向け溶剤、従来比約3倍の出荷能力増強**
- 2024.5月  
千葉工場 開発分析棟 竣工予定（投資額：約30億円）  
**研究開発と品質管理機能を統合し、生産性や品質向上に向けた製造技術力を強化**
- 2024.8月  
千葉工場 第4感光材工場 能力増強 完成予定  
（投資額：約120億円）  
**先端品向け材料の生産能力を1.8倍※に拡大**  
※2022.3月期比

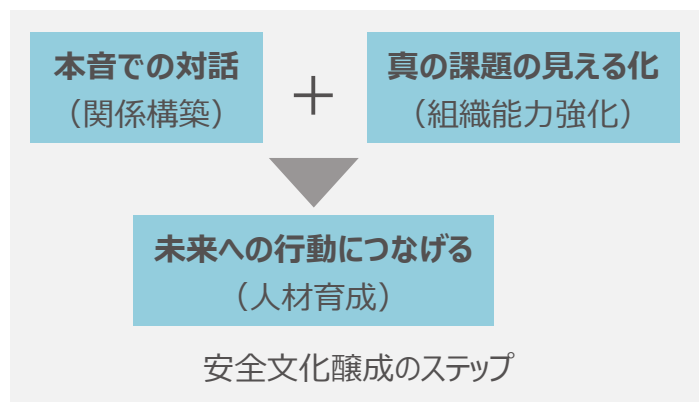


今後も需要に対する供給責任を果たすため、  
生産能力増強投資を継続。

## 中計目標

長期の継続的な事業拡大に向け、充実した仕事環境と人材育成環境への投資と実現

- 「一人ひとりが実感できる安全」の実現に向け、安全文化醸成ワークショップを実施。  
持続的な成長を支える社員一人ひとりが安全を実感できる職場環境の実現に向けて活動を継続。



- 2023年を「健康施策実施元年」と定め、健康増進への取り組みを開始  
結果、「健康経営優良法人」に2024年初認定。
- 男性育児休暇取得率  
**2024.3月期 55.6%を達成。**





# 独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical

---



東洋合成工業株式会社

## (見通しに関する注意事項)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。